実践発表　【小学校（中学年）・表現】

発想や構想を広げ、表現を深めるために

秋田県秋田市立御所野小学校　菅原　那美

１　提案趣旨

アンケートを実施すると図画工作科の学習を楽しんでいる児童は多いことが分かった。授業中もイメージしたものを自分なりに表現しようと頑張る姿が多く見られた。しかしイメージ通りにできたことで満足し、そこから「形や色を変えてみよう」と試行錯誤しながら発想や構想を広げ、表現を深めようとする児童はほとんど見られなかった。考えたことを形にするだけでなく、表現を深めようとする力を育てるために今回の授業を行った。

２　実践の概要

本題材「顔を出したら　なんだかワクワク」では、段ボールに穴を開け、顔を出して感じたことを形や色、材料の組合せを工夫して表現する活動を通して発想したり構想したりする力を育てる。そのために主に３つの点を重視した。

１つ目は、参考作品づくりである。本来、参考作品は教師が準備するものだ。しかし今回は児童に物足りないと感じる教師の表現を掲示し、グループに分かれて表現をよりよくするための付け足しをしてもらった。その活動の中で「スズランテープを重ねると透明感があるクラゲを表現できそう」と形や色、材料の組合せを工夫するといろいろな表現方法があることに気付く発言が多く出た。

２つ目は、試す活動と確認する活動の往復である。表現の幅を増やすことができるようにたくさんの材料を用意し、上記で述べた参考作品の製作を通して試す活動を充実させた。また、確認する活動も進んで行うことができるように、大型提示装置を鏡代わりに使用した。友だちの構想を広げるヒントになり、表現を見つめ直すことができた。

３つ目は、試行錯誤したことを友だち同士で伝え合う場づくりである。ある児童が偶然できた絵の具のかすれを気に入った。このことを友だちに伝えると、「絵の具ってそういう風に描けるのか」と発見し、他の児童も試していた。このように自分が試してよくなったことを話すことで、対話が広がり、表現を深める活動に発展した。



（確認する様子）



（鑑賞し合う様子）

３　成果と課題

（１）参考作品づくり

児童と一緒に参考作品をつくることで、形や色、材料の組合せを工夫する機会となり、表現方法がたくさんあることに気付くことができた。そこから「自分だったらどうするか」と考えることにつながった。

（２）場づくり

大型提示装置を鏡代わりに使用して、確認する活動に楽しみをもたせることができた。そこから子ども同士のよくできた表現を伝え合う対話が増え、発想や構想を広げるきっかけになった。

（３）思うようにいかないと感じる児童への対応

「考えた組合せが作品に合わない」と言う児童もいた。このような児童は「自分は失敗した」と感じ、表現意欲が下がってしまう。そのため、そういう児童には、「どういう感じにしたかった？」「ここはイメージ通りにできたね。ここからどうする？」という、児童の思いに寄り添った声掛けが大切であった。